



【すぎのめけじゅうたく】

杉野目家住宅

すぎのめはるさだ

杉野目晴貞の私邸

昭和5(1930)年、北海道帝国大学理学部創設にあたり、初代教授として札幌に赴任した杉野目晴貞(化学)が、昭和8(1933)年私邸として建設した住宅である。彼は、東北帝国大学理科大学の助教授で、第一回国際ロックフェラー財団フェローに選ばれ、英国、スイスの留学を終えた直後の赴任であった。昭和29(1954)年から12年間北海道大学学長を勤め、太平洋戦争後の北大の近代化、国際化の基礎固めに尽力した。住宅の設計者は、萩原悖正と弟子の岡田鴻記で、萩原は、北大の営繕課長当時、北大理学部、農学部本館など今に残る名建築の設計を手がけている。

概要

- 木骨レンガ造 2階建、鉄板葺
- 建築面積 231㎡

ハーフティンバー様式と洗い出しの壁

本住宅は、イングランド・チューダー朝様式の木骨^{もっこく}、煉瓦建、鉄板葺、建築面積231㎡の2階建洋館である。正面の切妻、破風部に湾曲させた木組の露出した“ハーフティンバー”スタイルの外壁、住宅のほぼ全面を覆う“洗い出し”の壁などに特色がある。北海道の住宅で初めての集中暖房と水洗方式のトイレが取り入れられ、現在も杉野目家の住宅として使われている。

- 建築年代：昭和8(1933)年
- 登録年月日：平成11(1999)年10月14日
- 所在地：札幌市中央区南19条西11丁目1-25
- 観覧形態：敷地外からのみ観覧可
- アクセス：市電「石山通」または「ロープウェイ入口」
じょうてつバス「南19条西11丁目」